

令和6年度 第1回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：令和6年8月1日（木） 午後1時30分～3時20分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 4人出席

委員長 小島 道裕

副委員長 広田 直行

委員 鈴木 一彦

委員 小玉 理恵子

委員 島立 理子

（教育委員会）

文化財課 君塚課長、蚊谷室長、森本課長補佐

（事務局）

加曾利貝塚博物館 神野館長、小池副館長、長原主査

郷土博物館 天野館長、芦田副館長、錦織主査

4 議 題

(1) 令和5年度の事業報告について

(2) その他

5 議事概要及び議事結果

(1) 令和5年度の事業報告について

加曾利貝塚博物館と郷土博物館からそれぞれの令和5年度の事業報告について説明し、各委員から意見が出された。

(2) その他

郷土博物館の展示リニューアルについて、設計資料の説明を行い、各委員から意見が出された。また、委員の任期と次回の開催予定について、事務局から説明を行った。

6 会議経過

錦織主査の司会進行により会議が開会。会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していること、千葉市情報公開条例第25条に基づき会議を公開していることを告げた。続いて、事務局職員を紹介した後、小島委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）令和5年度の事業報告について

< 説 明 >

加曾利貝塚博物館と郷土博物館から令和5年度の事業報告について説明した。

< 質疑応答等 >

小島委員長 ただいま事務局から説明があったので、委員から質問や意見をいただきたい。まず、加曽利貝塚博物館について質問や意見をお願いしたい。

鈴木委員 夏休み縄文ウィークと縄文秋まつりのところに、AR体験としてスマートグラス体験とあるが、これはどのようなものを映すのか。

長原主査 加曽利貝塚で大型の竪穴住居跡が見ついているが、それを空間の中に再現するというものである。例えば竪穴住居の穴に近づいていくと、柱が出てきたり、炉の跡では火を焚いているのが見えたりする。また加曽利E式土器の時期的な変遷を空間の中に再現して、それを内側や外側など様々な方向から見るができるようになってきているというようなものである。今回業者から提案があり、試験的に実施した。実際に体験した人にとってはかなりインパクトのある体験になったようである。また、ここ数年間行ってきた発掘調査の場所は現在更地になっているが、そこを歩くと発掘調査をしていた時の写真や発掘された遺物が出てくるなどの体験もできた。スマートグラス自体は入れられる情報量が大きくないので、重いデータは入れられないが、体験した人にとってはなるほどと思えるような内容になっていたと思う。

鈴木委員 確かに、AR体験であればインパクトのあるものだったと思う。NHKの番組で、VRでその時代のシーンを再現するというをやっていた。例えば江戸城開城の際の会議のシーンなどを再現していたが、番組内でもVRでの体験をきっかけに歴史に興味を持つ子どもたちが増えてくるのではないかということが話されていたので、今回は業者からの提案だったということだが、今後は博物館としてもVRやARを活用することを検討していく必要があると思う。

小玉委員 小学校の団体見学が少なかったということだが、以前は6年生になると、加曽利貝塚に行って見学するのは当たり前だった。その後、コロナがあって、なかなか公共交通機関に乗れない時期もあったが、昨年度からコロナの制限がなくなったので、都賀小学校に着任してすぐに申し込んで私もひさしぶりに見学させてもらった。前からある部分とリニューアルされている施設があって、子どもたちもグループごとにととても丁寧に説明していただいた。また来たいという子どもたちの感想があったのを覚えている。今年度、私は学校に残っていて参加しなかったが、特別支援学級の子どもたちが、担任と一緒に見学させていただいた。帰ってきて話を聞くと、一緒に付いてくれた方が、たいへん心に響く説明をしてくれたということだった。学級通信にも子供が竪穴住居に座って笑顔で写ってる写真が掲載され

ていて、やはり実際に行ってみると、体験できたり、有意義な話が聞けたりする。現在、社会科主任や学年主任が若返っているが、そうした人たちにもっと広めていかないとなかなか申し込みに繋がらないのではないかと考えている。今後、地域別の会や研修会等でその良さについて話をしていきたいと思う。

神野館長

当館としても学校団体に対してのアピールを強化していて、様々な教員関係の研修会などの場を借りて、こういう施設があるということをご報告させていただいているので、引き続きご協力願いたい。

島立委員

加曽利貝塚博物館と市原市歴史博物館で連携協定を結んで様々な事業をしているが、秋の展示が市原で「いちはらのお薬師様」、こちらがほぼ同じ時期に「縄文人のお祈り」という展示を行っていて、これはタイアップだったと思うが、例えば連携して広報するということがあったのか。また、11月23日の連携講座では様々な市町村の方が来て話をされているが、会場はどこだったのか。

神野館長

まず市原市歴史博物館との連携状況だが、どうしてもこちらは縄文時代という限定された時期の博物館で、先方は総合博物館ということで違いはどうしても出てくるのだが、どちらかの企画展に合わせて、それにタイアップしたような形でお互い連携できないかということを探した。市原の歴史博物館の企画展のテーマが薬師信仰だったので、縄文の博物館がそれにタイアップできるのか議論もあったが、そこで繋がるのは信仰関係だと、特に薬師信仰はどちらかということも仏教の中でも現世利益的なところがあるので、縄文時代の信仰と対応させることでお互いの展示の価値を高めることができるのではないかと考え、先方と協議して決めた。当館が縄文時代の信仰で、その展示を見た上で、さらにその先の信仰については、市原の企画展を見てくださいと時間を繋ぎ合わせるような形で行った。また、講座もそれに合わせて縄文時代から古代そして中近世と繋がっていくような講演会の形をとった。こちらは千葉市の生涯学習センターの大ホールで行った。今年度もそういったことを意識した展示を夏に企画していて、秋に行う市原の博物館の企画展が繋がるような形での連携を考えている。今回は開催時期をずらした形での開催となる。

島立委員

県内の博物館同士がネットワークを組んで連携していくことはたいへん良いことである。ぜひ続けていただきたい。もう一つは、縄文春まつりと秋まつりについて、2日間で7,617人という人数を捌くのはかなりたいへんだと思うが、これは友の会などと連携してやっているということか。

神野館長 友の会などの関係団体との連携もあるし、それ以外にも地域の業者による出店等もあって、そうしたものが加わるとやはり人数は増えてくる。

島立委員 地域を巻き込むということで、たいへんだと思うが、続けてもらえればと思う。

広田副委員長 様々な活動をされていることは分かったが、教育普及事業の中で参加人数に大きくひらきがあると思う。例えば5月20日と6月3日に行っている土版づくり講座は、成形して、乾燥させてから焼いて渡すので、2週間必要だったと思うが、例年こうしたやり方をしているのか。

神野館長 今回は土版で、比較的小型のためこの期間でできるのだが、少し大きめの土器や土偶を作ることになると、もう少し乾燥期間が必要になってくる。また工程も複雑になり、3日とか、あるいはもっと長い期間が必要となる。そこは作るものによって変わってくる。

広田副委員長 同じような焼き物講座というものを学生が企画していて、やはり連続して同じ人が参加することはなかなか難しいということで、一連の流れは両方に説明するが、整形だけとか絵付けだけのように、片方しか参加できなくても成立するような仕組みを考えているという。秋に実施するのだが、片方しか参加できない人たちのために今から学生たちが焼き物を作っている。この講座ではそうした片方しか参加できない人の参加の可能性は考えられないか。

神野館長 この講座はスペースなど様々な条件があるために人数を限定して募集している。応募した人は最初から最後までやりたいという思いが非常に強く、よほどのことがない限り欠席もしない。ほとんどの方は1回目から最後まで出ている。

広田副委員長 そういう価値がある講座ということで、了解した。

小島委員長 たいへん多彩な活動をしていて、特に博物館連携や地域連携にも積極的に取り組まれていることはとても良いと思う。しかし、いつも気になるのだが、新博物館に向けてそれらがどのように重なっていくのがよくわからない。今日の議題ではないが、新博物館について、当然何か展開があると思うので、報告してほしい。

蚊谷室長 まず令和5年度の実績報告をさせていただくと、まず建物整備に関

しては既に報告の通り、昨年6月に総事業費87億円で入札公告をかけたが、参加事業者なしで、ちょうど1年前に中止とした。その後表立って特に公開できる情報はない。現在、内部検討を行っているのは要求水準の見直しで、やはり建設物価が上がっているのに対応すべく、基本計画で示している延べ床面積4,800㎡については縮小せざるを得ないというのが今の内部検討の途中経過である。どれだけ面積を絞り込むかということについては、附属機関である史跡保存整備委員会での審議を経て、決定したいと考えている。博物館の本体以外では、博物館の敷地と特別史跡の間を繋ぐ周遊路と坂月川にかかる橋梁部が全長150mあるが、その部分の予備設計を行った。また、新博物館の土地についてだが、予定地全体で1万9,000㎡だが、その内、市の所有地が7,000㎡ある。残りの1万2,000㎡は私有地で、そのうち4,000㎡は土地の買収、残り8,000㎡については土地の借り上げということで契約が済んでいる。その土地の一部が、柳沢遺跡という縄文中期の遺跡の埋蔵文化財包蔵地にあたることから、発掘調査を実施したところ、阿玉台式という縄文中期の土器やその頃を中心とした遺物が多数発見された。しかしながら学術的な価値はそれほど高くないということで、記録保存した上で、今後は計画通り新博物館の開発用地として整備していく。

最後に、土壌汚染調査も実施している。実は市有地の7,000㎡は前の土地利用が汚水処理場であった関係で、土壌汚染のリスクがあることから調査を実施したところ、敷地の一部からフッ素と鉛の化合物が10地点ぐらいから検出され、その場所を対象にどのくらいの深さまで汚染が広がっているのかを今後調査する予定となっている。

以上が令和5年度の事業実績である。今年度については、中止した入札を再公告すべく、先ほど申し上げた要求水準の見直しをかけているところである。担当者としては、来年度の予算に計上して、来年度の春夏を目途に再度入札公告をかけ、その年度末には民間事業者を決定し、施設整備に係る契約を締結したいと考えている。また進捗があったら報告したい。

小島委員長

建物や施設面についての情報はよくわかった。ただ、いつも申し上げているが、建物の建設が遅れていても博物館というのはハード面がなくてもできるソフト面の事業がたくさんあるので、これから新しい博物館ができるという事が活動の中にもう少し現れてくることを期待する。

蚊谷室長

これはソフト面に近いことだと思うが、展示室の中をどのように構成にするのかという内部検討も別途行って、これはかなり検討が進んでいる。常設展示室の内、基本計画で示している加曽利ラボとい

う 500 m²ぐらいの部屋の展示の流れについてはおおよそ整理がついている。これもやはり別の附属機関である史跡保存整備委員会に諮りながら決めて行きたい。その部分は進捗しているので今後にご期待いただきたい。

小島委員長 今後、そうしたことも随時こちらの協議会でも報告してもらいたい。結局事業者が決まらなるとソフト面もなかなかできないという事情があることは前に聞いてわかったが、だから何もしないというのもまたおかしいので、前回も話したが、そのあたりをぜひ工夫してやってほしい。

他に何かあるか。なければ次に郷土博物館について、意見・質問を出してほしい。

島立委員 昨年の「商人たちの選択」は見せてもらったが、そのあと年度末に図録をいただいた。予算を集めて最後に刊行したということだが、博物館の展示は図録があって理解が深まると思うし、図録がないと博物館の展示は残らないので、できれば会期中に出した方がよいと思う。ぜひ予算の措置などを検討してほしい。

天野館長 博物館としては要望しているが、なかなか通らない現状がある。しかしそれで諦めていなくて、どうにか出してやるという思いがこちらにはあるので、最後にお金をかき集めて作ったということである。やはり手間をかけて資料を集めて、様々なことを準備したので、後世に残したい思いがある。来館者からは会期中に何で作らないんだと言われていたが、年度末に作って出しても意外と売れない。やはり熱が冷めてしまうのかもしれない。島立委員がおっしゃるように本来会期中に図録を手にとっていただくのが理想だろうとは思っている。去年はパネル展「京（みやこ）と千葉氏」のブックレットも予算的な制約で開催期間での刊行が叶わず、これも年度末に出すことになった。どうにかしたとは思っているが、なかなか我々だけの判断ではできずに、皆様にはご迷惑をおかけしている。

島立委員 やはり皆さん展示を見にきたら図録を買っていきたいと思う。従って、予算化をよろしくお願ひしたい。

鈴木委員 博物館実習について、学生が2名だったということだが、私は大学で教員をしているが、実習先を見つけるのがたいへんな状況がある。私が教えている千葉大学は博物館を持っていないので、自前で実習ができないということになり、各自で探すことになる。そうすると千葉には比較的博物館が少ないので、難しい現状がある。これは郷土博物

館だけをお願いするわけではないが、学生の受け入れ枠を1人分ずつでも増やしてもらえないか。大学側で自分たちの博物館を持つということも重要だが、なかなか難しい面もあるので、1人でも増やしてもらうことを考えてもらえればと思う。

錦織主査 年によって増減があり、去年は2人だったが、今年は10人の応募があり、定員の5人に絞った。我々もできるだけ多くの学生に実習の機会を提供しようとは思っている。

天野館長 さすがに、5名を超えると我々の規模の博物館では受け入れが難しい。学生は皆さんやる気のある方々なので断るのが申し訳ない。気の毒だと思いつつも、市の博物館なので、市内在住などの基準を優先して選んでいる。

鈴木委員 学芸員資格をとりたい学生は常に一定数いるので、そうした人たちに実習の機会を与えていただきたいと思います。昨年度が2名だったという理由がよくわからない。大学側が把握できないということか。

島立委員 県の中央博物館でも年によってすごく増減がある。中央博物館は20人以上取っているが、40人以上応募がある年もあるが、今年は27人で全員受け入れた。当館ではWebに情報を出している。

広田副委員長 これは活動内容からは外れるが、郷土博物館に来館する際のアプローチが非常にわかりづらいと今日感じた。とんかつ屋さんのところから上がってきたが、多分千葉から来ても本千葉から来ても、ここから上がれば先200mとか、そのぐらいの案内はあった方が親切だと思った。途中の駐車場のところも、そこに停められるのかどうかもわからない。今日、リニューアルの資料が出ているが、それとは別に少し周りからのアプローチの案内を検討したほうがよい。

天野館長 よくよく見ていただくと結構あちこちにあるのだが、確かにわかりにくいと思う。とんかつ屋さんのところからくる入口の電信柱にここから先は階段になると書いてあるが、車で侵入されると目の前に階段があって、戻ることになる。そこから図書館の方に向かうと信号を左折するようにとの標識があるのだが、どこにどう付けても確かに分かりにくいところだと思っている。

広田副委員長 現在、県の文化会館が工事中で中央図書館との間が通れなくなっている。

天野館長 確かに、とんかつ屋さんからまっすぐ石段を上がってくるのがやはり一番近い。

小島委員長 私もいつも歩いてくるが、看板に気が付いたことがない。やはりもう少し目立つものを要所につけてもらった方がよい。

私からも一つ述べさせてもらおうが、今年の特別展と企画展を両方とも見る事ができて、とても良かったと思う。「商人の選択」は本当に地元に着した興味深いテーマだったし、「享徳の乱」も私の専門に近いところだが、新しい資料の発掘もあり、新しい事実が展開されていて研究的にも非常に良い内容のものだったと思う。図録がよく売れたというのも理解できる。本当に最近スタッフも充実してきて研究水準も上がっていることはとても喜ばしいことだと思う。ただ、あえて言わせてもらえば展示としての見せ方が、どうしても十分とは言えない。一般のお客様がこれを見て果たして十分楽しんでもらえたかという点ではちょっと心許ない。どうしても研究的に新しくわかったことなど、ここを見せたいという方が先になってしまって、図録もいいものを作られたと思うが、図録の解説と展示の解説が同じである。つまり図録用に作った解説をそのまま展示のキャプションにしてしまっている。そうすると長すぎて立ったままではとても読み切れないし、文章としても堅い。展示のどこを見たらよいのかということがそこには入っていないので、展示を理解する上では、これでは難しいという部分が正直多々あった。やはり基本的に展示の解説と図録の解説文とは別のものなので、お客様が展示から情報を得るにはどうしたらいいのかは、様々なノウハウがある。展示リニューアルもあるので、もう少し研鑽を積んで、展示の見せ方をもう少し向上させることが課題だと思う。

天野館長 まさにおっしゃる通りだと私も思った。実際に出来たものを見て、よく頑張って、たいへんいいものは作ってもらったが、初めて見る方は、なかなか理解できないだろうと思った。やはり大きなストーリー構成のようなものが不足していると感じた。特に享徳の乱に関しては、そういう感じがしたし、ご指摘の通りかと思う。また、地図を大事にした方がよいという先生の以前からのご指摘について、どこで何がどういう場所で起こっているのかということをもう少し丁寧に示した方がよかったと思っている。実は今回のパネル展「千葉氏をめぐる水の物語」では、その辺を相当に意識して、地図を各所に入れることで、読み込めるようにしたので、少し改善に繋がってきたかなと思っている。今後ご指摘は肝に銘じていきたいと思う。

鈴木委員 両博物館にかかわることだが、どちらの博物館でも来館者に対する解説などは行ってるようだが、郷土博物館では市史編さんにも協力員

がいて、手伝ってもらっているということだ。加曾利貝塚博物館では解説以外の資料整理などの博物館業務について、ボランティアに協力してもらっていることはあるか。

神野館長 当館の場合は基本的に来館者対応の部分でボランティアガイドが機能している。現状は収蔵庫がない状態になっているので、資料を保有してそれを整理することが館内でできる状況ではない。そのため、そうした面でのボランティア活動は現在やっていない。

鈴木委員 おそらく郷土博物館とタイプが違うと思うのだが、そうしたことをやりたいという方が結構いらっしゃるだろう。ボランティアとして解説するだけでなく、資料にさわって、整理の手伝いをしたいという方もいる。実際他館でもかなり踏み込んだところまで、例えば、裏打ちの作業などもしてもらっているところがある。そうした場が設けられれば良いと思う。おそらくそれは新博物館ができてからということになると思うが、人にかかわることなので、今からでもできることから始めていただければよいと思う。資料の整理でなくても展示をいっしょに作っていくなどはできるのではないか。できるだけ一般の市民の方に関わってもらおうという形をつくってもらえるとよい。

天野館長 古文書のボランティアは、古文書を読み込んで、それを資料として整理していく作業をしてもらっているが、これは実は当館で実施している古文書講座から派生していった部分である。そこの講座を受講していた人たちの中で、もっと読みたいという方々にボランティア活動をしていただいている。

小島委員長 他に昨年度事業についてはよろしいか。では議題としてはその他になるが、ご承知のように郷土博物館は今年度下半期、まもなくリニューアルに入るということで委員の皆さんも当然関心が高いと思われるので、少し資料を用意してもらった。これについて、事務局から説明をしてほしい。

議事（2）その他

< 説明 >

郷土博物館から展示リニューアルについて、これからの予定と設計に伴い作成した図面等について説明した。

< 質疑応答等 >

小島委員長 ただいま事務局から説明があった。資料が大量なので見きれないとは思

うが、気づいた部分について委員から質問や意見をいただきたい。

広田副委員長　　はじめて改修の設計を見せてもらい、基本的にはオープンな展示から動線型の展示に変更するという事だと思うが、動線の問題が、階段利用者をメインに動線設計をしているが、そのパターンと、これからはやはりエレベーター利用者の動線というか、エレベーターを使って上まで行って、そこから一段ずつエレベーターを使って降りなければいけないお客さんもいる。その辺は丁寧に動線計画を示した方がよい。もう一点、多分それほど混雑しないことを想定しているのだと思うが、上りと下りが交差している部分がある。既存建物でなければこうした動線計画はやらないと思うので、その辺のサイン計画というか、階段を降りたところの周りの動線を業者と検討した方がよい。多分、2階の扱いが難しく、そこから決まってくると思う。そのため、3階と4階のインとアウトの部分で交差している。夏休みとか混雑時のことも考慮すると、若干問題があると思う。

芦田副館長　　結局、既存の建物という縛りがあり、どうしてもインとアウトが交差してしまう部分が出てくる。今回は、エレベーターで5階まで上がり、そこから下に降りてくる動線だが、なんとか通史の流れ、どういう順番で展示を見ればよいかを来館者に示したかったためにこのような形になった。

天野館長　　確かにエレベーターで1階ずつ降りてこられる方もいる。そうしたことも考慮していくととてつもなく複雑なものになってしまうが、考えていかなければいけない。

広田副委員長　　サイン計画でいいと思う。サインで来館者にわかるように示せばよい。

島立委員　　今の給食のレプリカが平成17年になっていて、もう20年前のもので今ではないと思うのだが、もう少し新しいものはないのか。現在、展示などで平成の写真を出すと来館者はなつかしいと言う。考えてみたら子どもの親は平成には小学生だったりして、世代交代は我々が思っているより早く、今と思っているものが最早なつかしいものになっているのではないかと思う。もし、給食の内容が変わっていないのであれば構わないが、そこが少し気になった。

天野館長　　一番新しい給食は要するに地産地消給食になっている。地産地消給食は今も出ていると思う。何も知らない子たちはパンの給食が一番新しいと思うだろうが、そうではないということ子どもたちに知って

もらいたい。これは戦後のララ物資などが関わることである。基本的には、ここはラウンジなので、おじいちゃんと親世代と今の地産地消費食を食べている子供たちがいろんなことをワイワイ話し合いながら見て、時代の移り変わりの背景について思いを及ぼしてもらうことが狙いである。

島立委員 だからこそ、ここに出ている昭和 27 年と昭和 40 年と平成 17 年ではその 3 世代では全然ない。その設定を少し検討してほしい。また、昨日静岡のふじのくに茶の都ミュージアムに行ってきたが、やはり最近の展示なので触ったり、匂いを嗅いだりができるようになっていた。ハンズオンはすごく良いと思うが維持がたいへんである。茶の都ミュージアムは世界中のお茶を手にとって、匂いを嗅ぐことができるようになっていて、これは掃除がたいへんだと思った。また先日琵琶湖博物館に行ったときに聞いたのだが、年中展示物が壊れるので、壊れた時に直せるスタッフがほぼ常駐しているという。このようにハンズオン展示は維持がたいへんなので、壊れたときのメンテナンスの予算についても考えておいた方がよい。

天野館長 博物館に行くときよく映像機器などが壊れて電気が消えているところがある。あまりそうしたものを導入しすぎるのも維持が難しいと思う。

島立委員 今どきの博物館を作っていくと、どうしてもそうしたリスクは出てくる。ただそれは大事なことだと思うので、そういうリスクがあることを財政担当にも承知してもらうことが大事である。

天野館長 今回、在来馬の復元についてもメンテナンス性を重視して、一部分が壊れたら全部変えなければならないようなものでは困るので、一部分だけをメンテナンスできる工夫をしてほしいと頼んでいる。やはり維持管理になかなかお金がつかないのが難しいところだと思う。

鈴木委員 入館料の無料というのは今後も続けるのか。

天野館長 今後についてはどうなるかわからない。これは個人の考えだが、今の東京国立博物館などは、特別展の入場料だけでも 2,000 円超えである。図録を加えると 6,000 円ぐらいになる。私はむしろ公立の博物館で無料というのは誇りに思うべきだと思っている。

鈴木委員 財政面もそうだが、観光開発をしている関係者に言わせるとお客の気持ちとして、ある程度の入場料を取らないと価値のあるものと思わ

ず、きちんと見てくれないという話もある。その人によれば、入場料を設定するのであれば、必ず1,000円以上にしなさいという話であった。それが必ずしも正しいとは言えないかもしれないが、一理あると思う。また、もっと重要なのは館側の考え方として、無料だから、それほど頑張らなくてもよいという気持ちがどうしても出てくる。お金をいただいているとどうしてもやらなければならないと思うという、世間的には何かそういう常識がある。そういう感覚からすると、無料であることはどちらにとってもよいことではない可能性があるので、ある程度は入館料を取ることも考えてはどうか。人は金額で測ってしまう面があるので、その程度の価値と判断されてしまう恐れがあり、難しいものがある。

天野館長 人それぞれだと思うが、特別展でこれだけのものを無料で見せてもらって本当に申し訳ないと言ってくれる方もいて、こういうところが無料で公開してくれていると本当ありがたい、という声もよく聞く。確かに善し悪しは難しいが、当館の職員には無料だから適当でよいという人は一人もいない。

小島委員長 有料であることに意味があるという意見もよくわかるが、博物館法にはご存じのように入館料とってはいけないとはっきり書いてある。やはりその精神を体現されているというのは素晴らしいこと、称賛すべきであると私は思っている。国立博物館が2,000円というのはけしからんことで、何のための博物館だと思っているのかと私は怒っている。やはり博物館の存在意義を否定するようなことはしてはいけない。図書館が無料なのと一緒に、博物館という施設は社会に開かれた誰でも利用できる場所でなければ絶対にいけない。そこは少なくとも設置者として守ってもらいたいと思う。例えば韓国は国公立ともに全部無料である。それでも当たり前運営されているし、来館者が満足していないということもない。また、ご存じのとおり大英博物館も無料である。やはり無料ということはそれなりに尊い価値があることだというのは普遍的な原理だと思う。このように暑くなってくるとふらっと入って涼みたい。博物館がそんな場所であってもいいと思っている。鈴木委員の意見は意見としてそうしたところも考えていただければと思う。

鈴木委員 新しい展示で千葉のことを改めて知ってもらおう意味でも、リニューアル開館時には学校の児童生徒さんに全員来ていただくくらいのイベントを行うとよい。リニューアル開館は来年度末になるのか。

天野館長 来年度の下半期、予定は11月ぐらいだと考えているが、こういうご

時世で、延びるかどうかなどについてはまだわからない。

小玉委員

先ほど給食の献立のサンプルの話が出たので、今写真を見たが、平成 17 年となっているので約 20 年前のものになる。現在も地産地消にはすごく力を入れているが、食物アレルギーのことが大変問題になっているので、野菜のピーナッツ和えとか、ピーナッツはもう使わないとか、キウイを使わないとか、かなり徹底されている。千葉の名物である味噌ピーも出さなくなっている。

小島委員

私も拝見して、すごく楽しみな展示になっている。特に地図上で理解することが大事だとかねがね言っていて、だいぶ入れていただいたと思うが、その上でもっとあってもよいのではないかと思う。地域博物館というのは極論するとそれぞれの時代の復元地図を作る作業みたいなものだと思う。だから最初の 5 階に地域全体の地図があって、そこから始まるというのはとても良いと思うが、それに対応するものが各フロアにあるかということそこまではなくて、例えば中世の町並みのグラフィックがあるが中世の千葉市域全体の様子はどうかというところまでは示されていない。これらを展示で全部やるというのはもちろん無理なことだが、やはりそこは大事だと思うのでソフト面でいろいろ見られるように、ワークシートを作成するなど様々な解説を加える方法があると思うので、そうしたところをせっかくここまで作ったのだから、来館者にわかりやすいものにしてほしい。

天野館長

明治の初めのところにフランス式の迅速図を市域全部剥ぎ合わせて展示する予定である。そうすると江戸から明治に入った頃の千葉の様子がよくわかると思う。自分の住んでいるところが、こんなところだったのかということがわかる。

小島委員長

それがとても大事だと思う。千葉市といっても広いので、この周辺だけではなくて、近世には佐倉と千葉との関係もあったりするので、もう少し広域的なところまでうまく理解できるような工夫をしてもらえるとありがたい。

では、時間はかなりすぎているのだが、その他について他に何かあるか。

天野館長

現在の委員の皆様が来年の 1 月 8 日までということになっている。ただ、小島委員長さんは今期任期いっぱいでご退任をされたいというお話をいただいているので、会議としては今回は最後ということになる。たいへん残念だが、今まで本当に的確なご意見をいただいたことを感謝申し上げたい。本当に我々も寂しい限りだが、小島委員長さ

んから、一言ご挨拶をいただきたい。

小島委員長

今の話にあったとおり、会議としてはおそらく最後になるので、一言を申させてもらう。2年前に前任館を退職したときに、やはり現役の方のほうが良いので、退任したいと申し出たところ、ちょうど委員長さんも退任されて、リニューアルの計画もあるので、そこまではということで努めさせていただいていた。いつも好き勝手なことばかり言って、役に立てたかどうか心許ないのだが、委員の皆様のご協力と事務局の誠実な対応のおかげで努めることができた。

せつかなので一言だけ期待を申し上げたいと思う。千葉市というのは私も千葉県民なのでシンパシーを持っており、やはり県都であり、県の輝ける都市であってほしいとかねがね思っている。ポテンシャルはものすごいものがあると思うが、やはり少し地味な印象があって、輝ける部分をもっと世界に発信していくのが博物館の役割だと思うのだが、現状では正直地味すぎて、もう少し良いものであっていいのではないかと思う。皆様のご努力は重々承知しているが、やはり郷土博物館にしても、これからリニューアルしたとしてもやはりこれではまだまだ100万都市である千葉市にふさわしい博物館とまで言えないと思うので、これを機会にさらに充実した地域の博物館になってほしいと思っている。100万都市というと仙台と同じくらいの規模なので、仙台市博と同じくらいの規模があっておかしくないと思うし、最近静岡市に博物館ができて、非常に斬新な新しい建物であり、展示であった。展示手法は資料の展示が少なく、グラフィックパネル中心で、あれはあまり良いとは私は思わないが、千葉市よりも遥かに人口の少ない都市でもそれだけの博物館を新しく造っているし、遺跡博物館では福井の一乗谷の博物館に先日行ってきたが、これもやはり非常に立派なものを造っている。歴史博物館というのはどんどん新しくなりつつあるので、やはり千葉市もそれを上回るものを是非志していただきたいと思う。郷土博物館は、全国に冠たる地域博物館として、地域博物館といったら千葉市といわれるくらいのものであっても不思議ではない。また、加曽利貝塚は特別史跡として世界的な価値がある遺跡なので、本当に世界に冠たる新石器文化の研究拠点くらいあって全然おかしくないと思う。以前にも申し上げたが、大谷翔平クラスの世界的な考古学者をここで学芸員として育てるくらい、それくらいの意気込みでこれからの活動をしていただきたいと念願している。一応任期はまだ1月までであるし、その後もぜひそれぞれの新博物館を今度は来館者として見学することを楽しみにしているのでよろしく願いしたい。ありがとうございました。

天野館長

小島先生がおっしゃったように、まだこれでおしまいではなくて、1月8日まで任期もありますので、何かありましたら遠慮なくご指導を

お願いしたいと思う。なお現在、後任の方については調整中だが、事務局としては、他の委員の先生方については引き続き委員の方をお努めいただきたいと考えているので、今後ともご協力いただけるようお願いする。後日、改めて手紙で依頼をさせていただくので、よろしくお願いしたい。

また次回第2回目の協議会の日程は、3月中旬頃を予定している。これも後日調整させていただくので、ご協力をお願いしたい。

小島委員長 ではこれで、本日の議事はここで終了する。

問い合わせ先 千葉市立加曽利貝塚博物館
TEL 043-231-0129
千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231